

北の志づめ

第232号

令和8年1月



写真撮影：富井純朗氏

先人に学ぶ

幕末から明治を駆けた風雲児 トーマス・ライト・ブラキストン 北室 かず子氏

円山地域の生物

野鳥観察の事始め 冬の円山、まさか、あの猛禽類が！ 北海道大学大学院理学研究院 教授 高木 昌興氏

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



干支鈴(午)

北の志づめ 第232号 令和8年1月1日発行

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474

電話／011-611-0261 FAX／011-611-0264 北海道神宮社務所

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



ご挨拶

宮司 間島 誉史秀



明けましておめでとうございます。

皇紀二千六百八十六年、令和八年丙午の新年を迎えるにあたり、わが国の安泰と皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

先ず以て、御皇室に於かれましては、昨年九月六日に、悠仁親王殿下が、加冠の儀を始めとする成年式に臨まれました。親王殿下の御成年を心よりお祝い申し上げますとともに、天皇皇后両陛下を始め御皇室の弥栄を謹んでご祈念申し上げます。

また、伊勢の神宮に於かれましては、令和十五年に予定される第六十三回式年遷宮に向けて、愈々、昨年五月より、諸祭事が始まりました。二十年に一度の式年遷宮は、これまで千三百年の長きに亘り、連綿と続けられております世界に類なき尊き重儀でございます。「国民総奉賛」のもと、御遷宮の諸準備が今後滞りなく進捗し、遷御の儀が恙なく無事、執り行われますことを、心よりご祈念申し上げます。

さて、本年は、毎年、当神宮の御例祭・神輿渡御の二切を執り仕切つて頂いております「北海道神宮敬神講社」の前身であります「札幌敬神講社」が、大正十五年一月に、京都の平安神宮の平安講社を模範として設立されてより百年となります。設立より今日に至るまでの百年の長きに亘り、先の大戦を始めとする様々な困難にも拘らず、御例祭・神輿渡御の斎行に、方ならぬご尽力を頂いて参りました先人たちのご労苦とご功績に、心より敬意を表し、謹んで感謝を申し上げる次第でございます。併せまして、同年に敬神講社の設立を記念して、御鳳輦の先駆け

を務める「維新勤王隊」が、平安神宮の維新勤王隊を移入して組織されてより百年を迎えます。京都より楽士を招聘して楽士隊を養成しましたが、勤王隊が組織された大正十五年に、勤王隊に関わる経費は、札幌敬神講社の総費用の半分を費やしたため、この年の山車を出すことが叶わなかったと言われております。

本年の年番は、第三山鼻祭典区でございますので、敬神講社の講長につきましては、山鼻祭典区の荒邦弘代表委員長にお勤め頂きます。維新勤王隊共々、本年も例祭・神輿渡御が恙なく盛大に斎行できますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

本年は、丙午の年ですが、午年は変化と躍動、急速に物事が進展する年といわれております。国の内外を問わず、社会・経済情勢ともに混沌の二途を辿る昨今ですが、今年こそは、その根幹をなす諸問題の解決に向けた動きが急速に進展し、一日も早く、明るく活力に満ちた平穏な日々が到来することを願っております。

結びに、北海道神宮の御祭神のご加護により、新しき年がご崇敬の皆様にとりまして、幸多き佳き年となりますことを心よりご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

令和八年 祭典・行事案内

毎月「二日」

月首祭並吟詠講誕生祭

一日参り(※一月・九月を除く)

「十日」

旬祭並敬神婦人会誕生祭

「十五日」

月次祭並むすび会誕生祭

「二十日」

旬祭並興風会献詠祭

◆一月

一日(木) 午前七時 歳旦祭

三日(土) 午前九時 元始祭

七日(水) 午前八時 昭和天皇祭遙拝

十四日(水) 午前十時 古神札焼納祭

(どんと焼き)

二十五日(日) 午前十一時 祈請祭

◆二月

三日(火) 午後三時 節分祭

十一日(水) 午前十時 紀元祭

十七日(火) 午前十時 祈年祭

二十三(月) 午前十時 天長祭

正午 第十四回新成人寒中褰会

◆三月

二十日(金) 午前九時 春季皇霊祭遙拝

二十九日(日) 午前十一時 入学祭

午後二時

※予定は変更となる場合がございます。最新の情報は公式ホームページをご覧ください。

先人に学ぶ

北室 かず子

第四回

幕末から明治を駆けつた風雲児



函館市中央図書館所蔵

トーマス・
ライト・
ブラキストン
一八三三年～一八九九年

全国で人里へのクマの出没が相次いでいますが、北海道ではヒグマ、本州以南ではツキノワグマと種類が異なります。ほかにもエゾモモンガ、クロテン、ナキウサギ、エゾリスなどが津軽海峡より北に、ニホンザル、ニホンカモシカ、ヤマネ、ムササビなどが津軽海峡より南に生息しています。このように津軽海峡が動物・鳥類の分布境界線であると、明治十六年（一八八三年）に発表したのが、英国人トーマス・ライト・ブラキストンです。

これを工部大学校（現・東京大学）教授のジョン・ミルンが高く評価し、津軽海峡を「ブラキストン・ライン」と呼ぶことを提案しました。ブラキストンとはどんな人物なのでしょう。ブラキストンは英国の王立陸軍士官学校で教育を受けた軍人でした。しかし興味の対象はもっぱら鳥類や博物学。クリミア戦争に従軍中でさえ、余暇に鳥類を採集していたほどです。思いが募って「博物館で働きたい」と、進化論で有名なダーウィンに相談したこともありました。

そんなブラキストンに二十四歳の時、チャンスが訪れます。北米大陸の科学調査や、中国・揚子江流域の地形図の作成に携わることができたのです。調査結果をまとめるため、上海の喧噪を逃れ、開港間もない箱館に訪れたのが文久元年（一八六一年）のことでした。翌年帰国して、アジアでの事業展開を図る会社

に入り、文久三年（一八六三年）、箱館を再訪しました。この時、新婚の妻を連れてシベリアを犬橇で横断して来たというから驚くばかりです。

好奇心と行動力に富むブラキスト



ブラキストンの2度目の邸宅。新政府軍の弾を被弾したのは明治2年5月11日早朝のことだった。
函館市中央図書館所蔵

ンは、箱館で精力的に活動します。まず、日本で初めてとなる蒸気を動力とした製材工場を建て、機械による製材に着手しました。これは「北海道中の森が切り尽くされる」と心配の聲が上がるほどの威力でした。明治元年（一八六八年）には、自宅で気象観測

を始めました。ブラキストンから測候を学んだ福士成豊が日本初の気象観測所を開設することになります。横浜の日刊新聞に連載した「JAPAN IN YEZO」は、地質、鉱物、動植物、気象、海流、考古学と実に幅広い分野にわたりました。

居留する外国人の求めで氷の需要が増す中、明治元年、中川嘉兵衛が五稜郭の外壕で良質の天然氷を採氷することに成功した裏にも、ブラキストンの助けがありました。

箱館戦争では、自宅に新政府軍からの砲弾が飛び込んで来ましたが「そのうち慣れたのを外さなくなる」と言っ

て、悠然と朝食を続ける豪傑ぶりを発揮します。

明治十二年（一八七九年）には、熱心に採集した鳥類の標本を開拓使から求められ、寄贈します。幾多の変遷を経て、この標本群は現在、北海道大学植物園・博物館に千三百点以上が保

管されています。その中には、函館で採集されたトキもあります。ブラキストンが、英国ビクトリア朝の博物学に則って科学的根拠がしっかりした標本を作っていたおかげで標本群は研究者の拠り所となり、未来への遺産ともなっています。

明治政府はお雇い外国人を重用する一方、外国商人には警戒感を抱いていたため、ブラキストンは多くの制約と闘わなければなりません。自力で道を開きながら北海道の自然をしっかりと見つめたからこそ、ブラキストン・ラインの発想も浮かび上がったのでしょう。時代を開くのは、好奇心に満ちた風雲児なのかもしれません。

プロフィール

昭和三十七年（一九六二年）生まれ。札幌市在住。筑波大学比較文化学類卒業後、婦人画報社（東京）で月刊誌の編集に携わり、平成三年（一九九一年）より札幌でノンフィクションライターとして活動。



外国人には行動エリアの制限があり、ブラキストンは製材所と最初の家を地蔵町居留地に建てた。今では函館の人気スポット、赤れんが倉庫の地域となっている。

野鳥観察の事始め

冬の円山、まさか、あの猛禽類が！

北海道大学大学院理学研究院
教授 高木 昌興

猛禽類と聞くとみなさんはどんな種の鳥を思い浮かべますか？ 猛禽類は読んで字の如く、猛々しい鳥の総称で、広義にはフクロウ類やハヤブサ類も含まれます。一般には哺乳類や大型の鳥類、魚類などを襲って捕獲し食べるワシやタカのことを指します。一方で、小型の猛禽類は昆虫などを主食にしたり、トビのように動物の死体などを探して食べたりする種も含まれます。猛禽類という括りは分類学的な学術用語ではないので曖昧です。さて、円山の猛禽類です。円山は自然が豊富とは言え、大都会の札幌に隣接して、流石に大型の猛禽類は生息できないだろうと推察されます。そこで北海道を代表する猛禽類について見ていこうと思います。



【写真1】オオワシの飛翔

まず思い浮かぶのはオオワシとオジロワシです。両種共に日本では絶滅危惧種に指定されています。オオワシは極東ロシアだけで繁殖する世界的にも珍しいワシです。冬になると北海道に飛来します。オオワシだけではなく、オオワシを観察するために世界中から北海道に沢山のバードウォッチャーがやってきます。このオオワシですが、オスの全長は約90cm、メス約100cm、翼を広げた長さは245cmにも及びます。暈が飛んでいるようなものです。黄色い大きな嘴と足、翼の前縁は白



【写真2】オジロワシの飛翔

食べることもあります。主に魚類を捕獲して食べます(写真3)。そのため海鷲と呼ばれます。実際のところ、この2種をよく観察できるのは道東方面です。つまり円山の森の中には生息していません。円山の情報を伝えるのがこの記事の役割にも関わらず、いない鳥の紹介は頂けないと思わないでください。オオワシとオジロワシは円山の森の中にはいませんが、上空を通過していきます。偶然の出会いか、根気強い観察が必要になりますが、円山でもオオワシとオジロワシを観察できます。



【写真3】捕獲した魚を食べるオジロワシ



【写真4】眼光鋭いクマタカの若鳥

次に円山の森の中にいる猛禽類を紹介합니다。オオタカやノスリという中型の猛禽類が春から秋にかけての時期に観察されることがありますが稀です。小型の猛禽類としては、ハイタカが生息しています。ハイタカは小型でも非常に飛翔能力に長け、森の中を自在にすごいスピードで飛び回り、小鳥を捕獲して食べます。数は多くはありませんが時に見かけます。それは円山に小鳥が多く、ハイタカの生息を支える自然が維持されていることを示しています。

そして単刀直入に書きます。実は円山にはクマタカが生息しています。私自身、これは驚きです。クマタカのオスの全長は約72cm、メス約80cm、翼を広げた長さは約160cmで、

オオワシやオジロワシほどではありませんがかなり大きい鳥です。神宮でよく見かける威圧的にも感じるハシブトガラスの全長が約57cmということなので、かなりの大きさです。クマタカはイヌワシと並ぶ、森の王者とも言える猛禽類です。体が大きいにも関わらず木々の間を俊敏に飛び、リスやウサギ、中型の鳥などを捕まえて食べます。深山幽谷に生息する孤高の猛禽という印象が私にはありました。札幌に隣接する円山にそのクマタカが生息していることをどう捉えるべきか、難しい問題です。これまでに円山界隈の森で観察できたクマタカはすべて若い鳥でした。おそらく円山では繁殖することなく、もう少し深い山で巣立ち、新天地を求めて円山に飛んできたのだろうと推察しています。円山には沢山のリスが生息しているので、何気に暮らしやすいのかもしれませんが。森の中で見るクマタカには圧倒的な存在感があります。凄いです。神宮のヒグマ騒動が落ち着いた折には円山の猛禽類観察にチャレンジしてみてください。

社頭風景

九月～十一月

神嘗奉祝祭並びに年番引継祭

十月十七日（金）、伊勢の神宮においてその年に収穫された我々日本人の主食でもある「お米」を、大神様に奉り召し上がっていただく神事、神嘗祭が斎行されました。伊勢の神宮では年間で一千六百余りもの祭事がある中、最も重要な神事とされています。北海道神宮からもこの祭典に併せ、東川町の北海道神宮神饌田でとれた稲穂をお送りしています。

北海道神宮では当日午前十時より、神嘗奉祝祭を斎行いたしました。ま



神嘗奉祝祭

た、併せて年番引継祭を斎行し、第一本府祭典区亀畑倭宏講長より敬神講社旗が返還され、次年度年番となる第三山鼻祭典区荒邦弘講長に間島宮司より講旗が授与されました。祭典終了後、前年番への感謝状と記念品の贈呈に引き続き、新年番の講長・副講長へ委嘱状が手渡されました。その後、参集殿にて年番引継式を行い、これをもつて令和八年の札幌まつりに向け本格的に始動いたしました。



年番引継式

明治祭

十一月三日は当神宮の御祭神であり、北海道の開拓に対し大いに御心を砕かれました明治天皇の誕生日にあたります。当日午前十時より、その御聖徳を仰ぐ、明治祭を斎行いたしました。祭典では舞楽「迦陵頻」を奉奏の後、「明治節」を斉唱いたしました。明治祭では毎年、明治十四年に行われた北海道御巡幸の折りに聞し召された開拓使麦酒醸造所（現サッポロビール株）の麦酒の往時の味わいを再現した「開拓使麦酒」を明治祭の神饌としてお供えています。



舞楽「迦陵頻」

新嘗祭並びに新穀勤労感謝祭

十一月二十三日（日・祝）午前十時、新嘗祭並新穀勤労感謝祭が、二二三名の参列のもと厳粛裡に斎行されました。祭典では北海道神宮神饌田奉斎会を始め、農業・商工業・漁業・林業・酒造の各団体代表者が幣帛を献じ、宮司の祝詞奏上の後、北海道農業協同組合中央会代表理事会長樽井功氏が豊作感謝の祭詞を奏上しました。神前は北海道神宮神饌田より収穫された「ゆめぴりか」十俵をはじめ、多くの方々より奉納されました品々で埋め尽くされ、北海道神宮校抵講とJAさっぽろによって奉納された野菜果物各種が盛り付けられた宝船が神前と神門前に飾られました。



野菜果物を盛った宝船

新年番講長・副講長ご紹介

令和八年度は第三山鼻祭典区が敬神講社年番となり、例祭の渡御奉仕を頂きます。第三山鼻祭典区の代表委員長並びに代表委員は次の通りです。（敬称略）



第三山鼻祭典区代表委員長
敬神講社 講長
荒 邦弘



第三山鼻祭典区代表委員
敬神講社 副講長
猪狩 佳弘



第三山鼻祭典区代表委員
敬神講社 副講長
中神 誓志



第三山鼻祭典区代表委員
敬神講社 副講長
猪俣 晃

第四十七回 北海道神宮少年剣道大会

九月二十三日（火）秋分の日、北海道神宮少年剣道大会が行われました。結果は次の通りです。

出場数	優勝	準優勝	3位
小学生団体	43 チーム	新川少年剣道クラブ	札幌平岸剣道部会
小学生個人	45 名	眞下葵衣	小野幌剣道会
中学生団体	38 チーム	若草スポーツ少年剣道部	札幌月寒剣道
中学生個人	40 名	植根華絆	平野花



少年剣士達

第六十七回 献菓祭

九月二十五日(木)午前十一時より献菓祭が北海道神宮銘菓奉献会会長長沼昭夫氏を始め、二十名の会員参列のもと斎行されました。御神前には全道各地の会員より銘菓が奉献されたほか、神門内テン

トでも九月二十四日(水)から九月二十八日(日)の期間展示されました。
また、九月二十八日(日)にはガールスカウト北海道第八団とボーイスカウト札幌第一団カブスカウト隊による野点が行われました。

第六十七回北海道神宮銘菓奉献会「献菓祭」に奉納頂きました皆様方をご紹介します。数々のご奉納ありがとうございました。(敬称略・順不同)

《所在》	《奉献菓名》	《会社名》	《代表者名》
札幌市	白い恋人	石屋製菓(株)	石水 創
札幌市	くず餅	(株)一久	久木 利弘
留萌市	にしんパイ	一久庵	高田 英雄
稚内市	流水まんじゅう	(有)御菓子司小鹿	小鹿 卓司
帯広市	SFG純米吟醸ケーキ	(株)OFFICE GREEN TALE	真鍋 充
伊達市	伊達かぶとまんじゅう	(有)菓子処久保	久保 武士
北見市	ほっちゃれ	(株)菓子處大丸	中村 寿志
旭川市	黒豆どら	菓子処まるきた(有)きたぐち	北口 潤
札幌市	梅園	菓子処みつや	今野 一
札幌市	菓子の樹通り	(株)菓子の樹	田中 英雄
札幌市	十勝田舎しるこ	(株)川西グレイスフーズ	川西 常夫
札幌市	きのとやバームクーヘン	(株)きのとや	長沼 昭夫
八雲町	北海道名物木彫り熊モナカ	(有)くら屋菓子舗	倉地 勝美
帯広市	シアンルルクッキー	(株)克蘭ベリー	水戸部公平
江差町	五勝手屋羊かん	(株)五勝手屋本舗	小笠原敏文
札幌市	蜂蜜キャラメルワッフルダンク・ウ!	(株)三八	小林 久一
旭川市	北かり丸福ドーナッツ	三葉製菓(株)	水上 崇

札幌市	焼菓子詰合	(有)シャトレース	中川 仁
札幌市	くるみとレーズン	(株)シャルロット	吉本 晋治
札幌市	白松がモナカ	(株)白松がモナカ本舗	白松 一郎
木古内町	孝行餅	(有)末廣庵	竹田 光伸
北見市	赤いサイロ	(株)清月	渡辺 主人
札幌市	山親爺ゆきだるま	千秋庵製菓(株)	中西 克彦
紋別市	紋太くん塩バターどら焼き	高砂屋菓子舗	渡邊 孝博
札幌市	北海道発酵バターの手作りサブレ	タケダ製菓(株)	武田 晃和
帯広市	北海道の味銘菓そばやき	竹屋製菓(株)	鈴木 培弘
旭川市	き花	(株)壺屋総本店	村本 暁宣
小樽市	十勝金時甘納豆	中ノ目製菓(株)	中ノ目孝道
北見市	ハッカ飴	永田製飴(株)	永田 泰之
小樽市	石倉くるみ餅	(株)新倉屋	新倉 正三
函館市	ロマネスク函館	(株)はこだて柳屋	若杉 充宏
旭川市	しゅまり饅頭	(株)福居製館所	福居 裕二
室蘭市	バター煎餅	(株)富留屋	古谷 公億
札幌市	手焼きどら焼き	あんやの豆とお菓子峰旬	川西 文男
札幌市	札幌農学校北海道ミルククッキー	北海道コンフェクト(株)	長沼真太郎
砂川市	夕張メロンピュアゼリー	(株)ホリ	堀 太一
札幌市	シヨコラブラウニー	(株)マサール	古谷 健
札幌市	お供餅	(株)美好屋	竹林 和俊
札幌市	北海道超熟チーズガレット	みれい菓(株)	小田 和也
新ひだか町	元祖三石羊羹詰合	(有)八木菓子舗	八木 一洋
函館市	くりりんかばちパイ	(株)吉田食品	吉田 貴之
帯広市	三方六しおバター	(株)柳月	田村 昇
留萌市	みつばちカステラ	(有)ルモンド	松村 泰年
帯広市	ひとつ鍋	(株)六花亭	小田 文英
洞爺湖町	わかさいも	(株)わかさいも本舗	若狭 洋市
札幌市	サチ	(株)わらく堂	関根 健右



北海道神宮銘菓奉献会の皆様



野点



献菓祭

神社本庁統理賞



札幌市立栄南中学校 〈3年〉瀧 ゆずき

北海道神宮宮司賞



札幌市立平岡公園小学校 〈6年〉竹中 慈

北海道神宮宮司賞



札幌市立真駒内桜山小学校 〈1年〉西塚 友里乃

北海道造形教育連盟賞



札幌市立二条小学校 〈5年〉森田 十五

▶ 北海道造形教育連盟賞



札幌市立平岡公園小学校 〈3年〉竹中 光

ぺんてる賞



札幌市立北九条小学校　〈4年〉石　梓燁

ぺんてる賞



札幌市立豊平小学校 〈2年〉仲宗根 夏芽

(敬称略)

ぺんてる賞



西野札幌幼稚園 〈6歳〉山崎 青周



賞状授与

九月六日（土）に写生大会が行われ、一五三点応募作品があり厳正なる審査の結果、その中より入賞作品が決定されました。

十月十三日（月・祝）午後二時より北海道神宮参集殿で入賞作品の表彰式が行われました。応募作品は十月一日（水）より十一月三日（月・祝）まで東回廊で展示されました。

第五十五回 写生大会表彰式

受賞者の方々をご紹介します。（敬称略）

〈神社本庁統理賞〉 1点

札幌市立栄南中学校 三年 瀧 ゆずき

〈北海道神宮宮司賞〉 2点

札幌市立平岡公園小学校 六年 竹中 慈
札幌市立真駒内桜山小学校 一年 西塚 友里 乃

《北海道造形教育連盟賞》2点

札幌市立平岡公園小学校	三年	竹中	札幌市立二条小学校	五年	森田
					十五光

〈ぺんてる賞〉 3点

西野 札幌 札幌市立北九条小学校 四年 石仲根 梓燁
札幌市立豊平小学校 二年 山崎 青周

《金賞》 8点

札幌市立中央中学校	三年	岡上奈波椿
札幌市立二条小学校	六年	井叶穂
札幌市立桑園小学校	五年	丹下葉乃
札幌市立谷地小学校	四年	三浦嘉利
札幌市立幌西小学校	二年	高崎さくら
札幌市立宮の森小学校	一年	浜田佳音
インターナショナル山の幼稚園	四歳	都築大志

〈銀賞〉
8点

札幌市立清田中学校	一年	中村	碧唯
札幌市立幌東小学校	六年	青池	晴唯
札幌市立琴似小学校	五年	小笠原	結月
札幌市立幌寒西小学校	四年	小島	千文
札幌市立本町小学校	三年	阿部	紀文
札幌市立本町小学校	二年	坂下	心桃
札幌市立本町小学校	一年	坂下	藍那
認定子ども園カトリック聖園 ^① 子どもの家	六歳	竹縄	

《銅賞》 16点

札幌市立太
 平中学校三
 年梅田遙菜

〈入選〉
31点

札幌市立向陵中学校	二年	板倉 千恵美
札幌市立厚別北中学校	一年	松野 愛桜
札幌市立宮北小学校	六年	三箇 萌花
札幌市立立北の森小学校	六年	三浦 葉月
札幌市立栄北小学校	五年	窪田 侑莉
札幌市立立山小学校	五年	板倉 千夏
札幌市立新札幌かば小学校	四年	村上 柚鈴花
札幌市立立桑園小学校	三年	佐藤 楓果
札幌市立中央小学校	三年	森 結飛
札幌市立立幌北小学校	二年	東條 ひなた
札幌市立発寒西小学校	二年	中島 凜歌
札幌市立藻岩小学校	一年	加藤 響歌
認定こども園虹の森カトリック幼稚園	三歳	さかもとしゅん

[illegible]

北海道神宮頓宮

北海道神宮頓宮例祭秋まつり
(令和七年九月二十日～二十一日)

秋の訪れを告げる札幌の風物詩「北海道神宮頓宮例祭〜秋まつり〜」が、令和七年九月二十日から二十一日にかけて、北海道神宮頓宮にて盛大に開催されました。

北海道では珍しい「線状降水帯」の発生が予報されていましたが、当日は幸いにも秋晴れに恵まれ、今年も多くの市民や観光客が訪れ、境内は終日賑わいを見せました。

大神輿渡御では、宮出しの際、北札蔦土木



大神輿渡御



木遣り

組合様による「いよーおーいやりーりよー」と威勢の良い木遣りが響き渡り、華やかに飾られた神輿が東・苗穂・東北の各地域を練り歩きました。沿道には多くの人々が集まり、拍手と歓声で神輿を迎える姿が見られ、この古式ゆかしい行事は、札幌の歴史に思いを馳せるひとときとなりました。



宮入り

夕刻には、晴々屋北海道花火様による奉納花火が打ち上げられ、夜空に咲く光の花が祭りの締めくくりを華やかに彩りました。打ち上げは午後六時から約三分間と短時間ながらも、幻想的な光景に参拝者から感嘆の声が上がりました。

境内では、奉納舞台での太鼓演奏や神楽、カラオケのど自慢大会など多彩な演芸が披露され、第七東祭典区様・奉賛団体一日講社様による屋台やこども縁日も立ち並び、老若男女を問わず多くの方々や家族連れで賑わいました。



奉納舞台

奉賛会だより



年頭の辞

北海道神宮奉賛会
会長 岩田 圭剛

明けましておめでとうございます。令和八年の新春を迎えるにあたり、心よりお慶び申し上げます。

昨年の国内においては、「大阪・関西万博」が盛大に開催され、多くの来場者で賑わいました。日本の伝統や先進技術が世界に広く紹介され、国際的な交流の輪が一層広がりました。万博を通じて生まれた新たな交流や発見が、今後の社会や経済のさらなる発展へと繋がっていくことが大いに喜ばしく、明るい未来への希望が感じられる二年となりました。

一方で、物価高や米の不足などが全国的に話題となった年でもありました。そのような中、北海道は米の安定供給の一翼を担い、堅実な生産体制のもと昨年を上回る収穫量を確保しました。また、二等米比率においても全国平均を大きく上回る成果を挙げ、改めて我が国の食糧基地として北海道の存在感が示されたことは、とても頼もしい限りです。

令和七年度の奉賛会事業としましては、十月二日に三十四名の会員にご参加を頂き第三十八回境内清掃奉仕を行いました。前日の雨で落葉の多い中にもかかわらず、皆様のお力添えにより境内は清らかに整えられました。ご奉仕くださいました皆様に、心より御礼申し上げます。

奉賛会といたしまして本年も、さらなる活動の充実と神宮の護持発展に尽力してまいる所存でございます。会員の皆様におかれましては、当会事業に対し、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

北海道神宮の大神様のご加護のもと、この新たな年が会員の皆様にとりまして実り多き佳き年となりますよう、心からご祈念いたしまして、年頭の辞とさせていただきます。

新入会員のご紹介

萱野 初江
田島 重光
齊藤 公紀
広岡 良一
榊北海道伊藤園
大槻 高広
木下 真由美
渡辺 久美
富田 昌子

協賛者のご紹介

◆ 一万円
Chan Yan Wai
野寺 博充

◆ 五千円
内田 大介

第三十八回 境内清掃奉仕

北海道神宮奉養会の恒例行事であります。境内の清掃奉仕が十二月二日(日)に三十四名の皆様の参加を頂き行われました。

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和七年九月一日から十一月十五日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

（敬称略・順不同）